表面に開く。*Massarina* 属の菌類は 50 種以上知られ，そのほとんどは双子葉植物の枯茎上に発生するが，わずかに数種が単子葉植物上に発生する。タケには日本で 2 種が記載されているが，本種とは偽子嚢殻の形態や子嚢胞子の大きさで区別される。

Phaeotomasellia ruwenzorensis Katumoto (新属・新種)。偽子嚢殻は稈の表皮下に埋没して生じ，扁平な半球形，基部はすそ状に拡がり，口孔部は外部にやや突出して開く。殻壁構成細胞は角形で，く形菌組織となり縦につらなって配列している。ドチデア科の *Scirrhia* 属に類似しているが，偽子嚢殻の centrum の発生様式はプレオスポラ型である。プレオスポラ科中の類似属のうち，*Mycomicrothelia* 属とは偽子嚢殻に付属菌糸層を欠くことで，*Tomasellia* 属とは子嚢胞子が暗褐色となることで，また *Didymosphaeria* 属とは偽子嚢殻が扁平半球形でく形菌組織からなることで区別される。

○モンパノキの学名（大橋広好）　Hiroyoshi OHASHI: *Argusia argentea* (L. f.) H. Hein (Boraginaceae)

スナビキソウやモンパノキは Johnston (1935, 1951) の研究によって *Tournefortia* L. から果実の違いによって区別され，スナビキソウ属 *Messerschmidia* Hebenstr. (1763) として別属にまとめられた。その後多くの研究者がこの考えを採用してきた。ところが，Dandy (1972) はこの属名に対して *Argusia* Boehmer (1760) という先行名を見いだし，それに基づいてスナビキソウを *Argusia sibirica* (L.) Dandy と変更した。この意見は Flora Europaea 3 (1972) にも採用されている。最近モンパノキの学名を調べたところ，*Argusia* のもとで Hein (1976) が組みかえを行ったことを知った。Johnston (1935, 1949, 1951) の考えをはじめ，従来の説を検討してみると，最近では Walker (1976) などが *Tournefortia* を採っているが，スナビキソウ属を独立属として認めることがよいと考えるので，新組合せの発表された雑誌が見易いものではないこともあって，最近の日本のフロラ関係の一般的な文献とともに，ここに紹介しておきたい。

Argusia argentea (L. f.) H. Hein in Fl. N. Caled. & Depend. 7: 109 (1976).

Tournefortia argentea L.f., Suppl. Pl. 133 (1781)-Walker, Fl. Okinawa 876 (1976).

Messerschmidia argentea (L. f.) Johnston in J. Arn. Arb. **16**: 164 (1935); l. c. **32**: 121 (1951)-Ohwi, Fl. Jap. 979 (1973); l. c. ed. rev. 1125 (1965); l. c. ed. Engl. 756 (1965): Corner & Watanabe, Illust. Guide Trop. Pl. 749 (1969): Kitam. & Murata, Col. Illust. Woody Pl. Jap. **1**: 53 (1971): Hatusima, Fl. Ryukyu 509 (1971); Woody Pl. Jap. 554 (1976): Sugimoto, New Keys Woody Pl. 417 (1972): Okuyama, Terasaki Illust, Fl. Jap. 666 (1977): Hsiao in Fl. Taiwan **4**: 404 (1976): Hatusima & Nackejima, Fls. Ryukyu Isl. 118 & 290 (1979).

(東北大学理学部生物学教室)